



人口重心近くに医療・文化拠点を！



医療文化拠点 1 医療・文化拠点は、人口重心近くに必要

四日市市民の人口重心である大井手付近は、全市民の移動距離の総和が最少になる地点です。救急搬送時間を最小にしたり、市民と図書館を近づけたりするには、人口重心付近に病院や図書館を設置すべきであり、市立四日市病院（芝田）や現図書館（久保田）は、ほぼ理想的な場所にあります。この地を医療・文化拠点として整備することで、全ての市民に等しく、医療や文化を提供することができます。

医療文化拠点 2 現図書館敷地は、14,000 m²の建物が建つ

現図書館の敷地面積は、4,738.01 m²。建蔽率 80%・容積率 300%の近隣商業地域なので、床面積 14,214.03 m²までの建物を建てることができます。

人口 30 万人都市の図書館であれば、10,000 m²の図書館床面積が必要とされます。

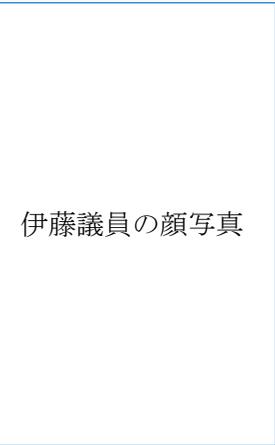
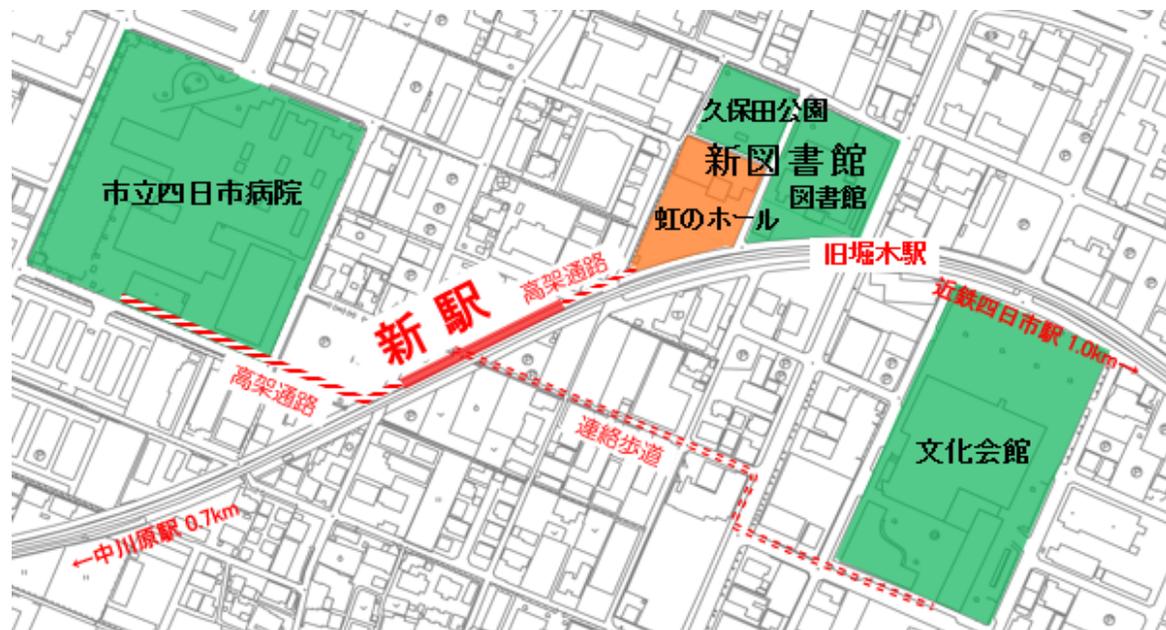
現図書館に増築したり、建て替えたりすれば、子どもや青少年の多様な知識欲に応えることができる豊富な蔵書を備えた、「子育てするなら四日市」にふさわしい、床面積 10,000 m²を超える新図書館を整備することができます。

医療文化拠点 3 新駅整備で、利便向上と公共交通利用促進

市立四日市病院は鉄道駅からやや遠いという課題があります。そこで近鉄湯の山線の旧堀木駅を、少し西へ移して復活させ、市立四日市病院、現図書館、文化会館への最寄り駅とすべきだと考えます。この結果、鉄道で通院や見舞い等ができたり、現図書館から鉄道駅までの所要時間が、徒歩 12 分から徒歩 1 分に短縮されます。また、公共交通機関の利用促進や、病院や図書館等の駐車場混雑緩和になります。

医療文化拠点 4 旧虹のホール様は、まちづくりの大切な場所

JAみえきた様の虹のホール様は、平成 29 年末に営業を終了されました。本市の医療・文化拠点を形成する上で大切な場所であり、その利活用について、JAみえきた様と早急に協議をするべきだと考えます。新図書館工事中の仮設図書館や、新図書館の立体駐車場を兼ねた駅ビル等、多くの市民に利便をもたらす様々な可能性を秘めた場所です。



伊藤議員の顔写真

この意見広告は、森四日市市長が掲げる「子育てするなら四日市」を実現するために、新図書館のあるべき姿を皆様に考えていただきたく、私の考えを説明させていただきました。

皆様の忌憚のないご意見をお聞かせください。

平成 30 年 2 月

四日市市議会議員 伊藤 嗣也

〒512-0936 三重県四日市市別山四丁目 1313

TEL : 059-322-5553 (FAX 兼用)

TEL : 090-3253-0290 (携帯)

E-mail : yonshigi04@icloud.com